

Oracle® Enterprise Manager

システム監視プラグイン・インストール・ガイド for Microsoft .NET Framework

10g リリース 2 (10.2)

部品番号 : B28470-01

原典情報 : B28043-01 Oracle Enterprise Manager System Monitoring Plug-in Installation Guide for Microsoft .NET Framework, 10g Release 2 (10.2)

2006 年 4 月

このドキュメントには、Oracle System Monitoring Plug-in for Microsoft .NET Framework に関する簡単な説明、プラグインでサポートされる .NET Framework のバージョンおよびオペレーティング・システム・プラットフォームの詳細、およびプラグインのインストールの前提条件が記載されています。また、プラグインのダウンロード、インストール、検査および検証方法の手順も記載されています。

説明

Microsoft .NET Framework は、Windows ベースのアプリケーションの作成および実行に使用される Microsoft Windows オペレーティング・システムのコンポーネントです。

System Monitoring Plug-in for Microsoft .NET Framework は、Oracle Enterprise Manager Grid Control を拡張して、Microsoft .NET Framework の管理に対するサポートを追加します。Grid Control 環境にプラグインをデプロイすると、Microsoft .NET Framework の次の管理機能を取得できます。

- 可用性の監視および次のパフォーマンス領域における Microsoft .NET Framework Server データの受信：
 - .NET CLR メモリー
 - .NET CLR ネットワーク
 - .NET CLR ロックおよびスレッド
 - .NET CLR 例外
- 収集されたパフォーマンス情報の傾向の分析。
- 可用性、パフォーマンスまたは構成データ（あるいはそのすべて）に関連する、考えられる問題についての電子メールまたはページ通知（あるいはその両方）の受信。
- デフォルトで作成される豊富なレポートの取得。
- リモート・エージェントによる監視のサポート。リモート監視の場合、.NET Framework と同じコンピュータ上にエージェントを配置する必要はありません。

ORACLE®

Copyright © 2006, Oracle. All rights reserved.

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle Enterprise Manager は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

サポートされるバージョン

このプラグインでは、次のバージョンの製品がサポートされます。

- Enterprise Manager Grid Control 10g リリース 2 以上の管理サービス
- Enterprise Manager Grid Control 10g for Windows リリース 2 以上のエージェント
- Windows Server 2003 で実行されている Microsoft .NET Framework 1.1.x (次の注意を参照)
- Windows Server 2003 で実行されている Microsoft .NET Framework 2.0.x (次の注意を参照)

注意： この Microsoft 製品の実行がサポートされているエディション (Enterprise、Standard など) および Windows オペレーティング・システムのバージョンの詳細は、Microsoft 社の Web サイトまたはドキュメント (あるいはその両方) を参照してください。

前提条件

プラグインをデプロイする前に、次の前提条件を設定する必要があります。

- Microsoft .NET Framework 1.1.x または 2.0.x。
- Oracle Enterprise Manager Grid Control 10g リリース 2 以上の次のコンポーネント：
 - Oracle 管理リポジトリのある Oracle 管理サービス
 - Windows 用 Oracle 管理エージェントエージェントは、.NET Framework と同じコンピュータ上にインストールする (ローカル・エージェント監視) か、.NET Framework と異なるコンピュータ上にインストールする (リモート・エージェント監視) ことができます。
- Windows Management Instrumentation サービスが実行中であることを確認してください。
- リモート・エージェント監視の場合、リモート・エージェントを適切に構成する必要があります。手順は、「[リモート・エージェントの構成](#)」を参照してください。

プラグインのデプロイ

前提条件を満たしていることを確認した後、次の手順を使用してプラグインをデプロイします。

1. Microsoft .NET Framework プラグインのアーカイブを、ブラウザを起動しているデスクトップまたはコンピュータにダウンロードします。アーカイブは、Oracle Technology Network (OTN) からダウンロードできます。
2. スーパー管理者として Enterprise Manager Grid Control にログインします。
3. Grid Control ホームページの右上隅にある「**設定**」リンクをクリックし、次に設定ページの左側にある「**管理プラグイン**」リンクをクリックします。
4. 「**インポート**」をクリックします。
5. 「**参照**」をクリックしてプラグインのアーカイブを選択します。
6. 「**リスト・アーカイブ**」をクリックします。
7. プラグインを選択して「**OK**」をクリックします。
8. プラグインのデプロイ先のエージェントすべてに優先資格証明を設定したことを確認します。

9. 管理プラグイン・ページで、Microsoft .NET Framework プラグインの「**デプロイ**」列のアイコンをクリックします。管理プラグインのデプロイ・ウィザードが表示されます。
10. 「**エージェントの追加**」をクリックして、プラグインのデプロイ先のエージェントを1つ以上選択します。ウィザードが再び表示され、選択したエージェントが表示されます。
11. 「**次へ**」をクリックし、「**終了**」をクリックします。

優先資格証明が設定されていないというエラー・メッセージが表示された場合、プリファレンス・ページに移動して、エージェント・ターゲット・タイプおよびエージェントがあるホスト・ターゲット・タイプの優先資格証明を追加します。

監視対象インスタンスの追加

プラグインを正常にデプロイした後、プラグイン・ターゲットを集中監視および管理するために、次の手順に従って Grid Control に追加します。

1. Microsoft .NET Framework プラグインをデプロイしたエージェントのホームページで、「**追加**」ドロップダウン・リストから **Microsoft .NET Framework** ターゲット・タイプを選択し、「**実行**」をクリックします。Microsoft .NET Framework の追加ページが表示されます。
2. プロパティに次の情報を入力します。
 - **名前**:すべての Grid Control ターゲットに使用される一意のターゲット名 (.net_hostname など)。この名前は、Grid Control 内のすべてのユーザー・インタフェースで、この .NET ターゲットを表します。
 - **ホスト**:ホストの完全名 (machineA.com など、ドメイン名を含む) または IP アドレス。
 - **ユーザー名**:ホストのユーザー名 (管理者アカウントにする必要があります)。リモート・エージェント監視の場合のみ必要です。
 - **パスワード**:ユーザー名のパスワード。リモート・エージェント監視の場合のみ必要です。
 - **エージェントの場所**:「リモート」は、.NET Framework ターゲットを監視するエージェントが監視対象ターゲットと同じコンピュータにないことを指定します。(詳細は、「[リモート・エージェントの構成](#)」を参照してください。)
「ローカル」は、ターゲットを監視するエージェントが監視対象ターゲットと同じコンピュータにあることを指定します。「リモート」および「ローカル」では大小文字が区別されるため、小文字にする必要があることに注意してください。
3. 「**接続テスト**」をクリックして、入力したパラメータ (パスワードなど) が正しいことを確認します。
4. 接続テストが成功した場合、手順 2 の暗号化されたパラメータを再入力して、「**OK**」をクリックします。

注意: プラグインをデプロイして、環境内で1つ以上のターゲットを監視するように構成した後、プラグインの監視設定をカスタマイズできます。これにより、環境の特別な要件を満たすようにメトリックの収集間隔およびしきい値の設定を変更できます。メトリックの収集を1つ以上無効にした場合、メトリックなどに関するレポートに影響を与える可能性があります。

プラグインの検査および検証

プラグインでデータの収集が開始するまで数分間待機した後、次の手順を使用して、プラグイン・ターゲットが Enterprise Manager で適切に監視されていることを検査および検証します。

1. エージェントのホームページの「監視ターゲット」表で、Microsoft .NET Framework ターゲット・リンクをクリックします。Microsoft .NET Framework のホームページが表示されます。
2. 「メトリック」表に、メトリック収集エラーが報告されていないことを確認します。
3. レポート・プロパティ・ページを選択して、レポートが表示されていること、およびエラーが報告されていないことを確認します。

リモート・エージェントの構成

プラグインのデプロイ手順は、リモート・エージェント監視とローカル・エージェント監視で共通です。ただし、エージェントがプラグイン・ターゲットのリモート・コンピュータにある場合、プラグインのあるコンピュータの Windows Management Instrumentation (WMI) データにアクセスするように構成する必要があります。

コンピュータ A でエージェントが実行されており、コンピュータ B にターゲットがインストールされている場合、コンピュータ A を次のように設定します。

1. Windows の「コントロールパネル」に移動し、「管理ツール」→「サービス」を選択します。
2. エージェントが実行されているコンピュータのリストから「Oracle Enterprise Manager エージェント・サービス」を選択します。
3. サービスを右クリックして「プロパティ」を選択します。
4. 「ログオン」タブをクリックします。デフォルトでは、サービスはローカル・システムのアカウントで開始します。
5. 「アカウント」ラジオ・ボタンを選択してデフォルト・アカウントを変更し、コンピュータ A およびコンピュータ B の両方に存在するアカウントおよびパスワードを指定します。

アカウントは管理者グループのメンバーである必要があります。また、アカウントにはコンピュータ B に対する管理権限が必要です。パスワードは空白のままにしないでください。
6. 「OK」をクリックしてエージェント・サービスを再開します。
7. 両方のコンピュータで Windows Management Instrumentation サービスが実行中であることを確認してください。

これで、エージェントがプラグイン・ターゲットのリモート・コンピュータからデータを収集できるようになります。前述の構成を開始しない場合、プラグイン・ターゲット・メトリックのメトリック収集エラーが表示される可能性があります。

Enterprise Manager 内でメトリック収集エラーが確実に発生しないようにするには、WMI の設定について Microsoft 社のドキュメントを参照することをお勧めします。追加構成の詳細は、Microsoft 社の Web サイトで Microsoft 社のドキュメントを参照してください。

注意： リモート・エージェントの場合、エージェントのインストール先プラットフォームは、.NET Framework をサポートしていない Windows タイプにすることができます。たとえば、.NET Framework が Windows 2003 で実行されている場合、Windows XP にリモート・エージェントをインストールして監視することができます。

プラグインのアンデプロイ

プラグインをエージェントからアンデプロイするには、次の手順を使用します。

1. スーパー管理者として Enterprise Manager Grid Control にログインします。
2. 「ターゲット」タブを選択して、次に「すべてのターゲット」サブタブを選択します。すべてのターゲット・ページが表示されます。
3. Microsoft .NET Framework プラグイン・ターゲットを選択して「削除」をクリックします。この手順は、プラグインのすべてのターゲットに対して実行する必要があります。
4. プラグインのデプロイ先のエージェントに優先資格証明が設定されていることを確認します。
5. すべてのターゲット・ページの右上隅にある「設定」リンクをクリックし、次に設定ページの左側にある「管理プラグイン」リンクをクリックします。管理プラグイン・ページが表示されます。
6. Microsoft .NET Framework プラグインの「アンデプロイ」列のアイコンをクリックします。管理プラグインのアンデプロイ・ページが表示されます。
7. Microsoft .NET Framework プラグインに現在デプロイされているエージェントをすべて選択して「OK」をクリックします。

プラグインを Enterprise Manager から完全に削除するには、システムのすべてのエージェントからアンデプロイする必要があります。

8. 管理プラグイン・ページで Microsoft .NET Framework プラグインを選択して、「削除」をクリックします。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関する評価や言及は行っておりません。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。

サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.co.jp>

<http://otn.oracle.co.jp>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。
